

## 「国連研究」に掲載された書評一覧 合計117書籍（2024年9月）

著者	出版年	著書名	出版社	書評執筆者	「国連研究」の号数
Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss	2021年	The Third UN: How a Knowledge Ecology Helps the UN Think	Oxford University Press	小林綾子	24号
David M. Crane, Leila N. Sadat and	2018年	The Founders: Four Pioneering Individuals Who Launched the First Modern	Cambridge University Press	越智萌	22号
明石康	2006年	国際連合 — 軌跡と展望	岩波新書	安藤仁介	9号
明石康・高須幸雄・野村彰男・大芝亮・秋山信将 編著	2008年	オールラブルストーリー：日本と国連の50年	ミネルヴァ書房	庄司真理子	9号
秋月弘子	1999年	国連法序説 — 国連総会の自立的補助機関の法主体性に関する研究	国際書院	松隈潤	2号
秋月弘子・中谷和弘・西海真樹 編	2011年	大衆の道徳的責任としての国際法 — 平和、自由、繁栄をめざして —	国際書院	植木俊哉	15号
旭 英昭 著	2014年	平和構築を再構築する	日本評論社	上田秀明	16号
ステン・アスク、 アンナ・マルク＝ウングクヴィスト アデケエ・アデバジョ、ヘレン・ス カロン 編	2005年	世界平和への冒険旅行 — ダグ・ハマースホルドと国連の未来	Palgrave Macmillan	功力達朗	15号
コフィ・アナン ネイダー・ムザヴィザドゥ 著（白戸	2006年	難聴者の会話 — アフリカと国連に関する論文集	Fanele, South Africa	長谷敏夫	9号
2016年	介入のとき：コフィ・アナン回顧録	岩波書店	山田哲也	19号	
安藤仁介・中村道・位田隆一 編	2004年	21世紀の国際機構：課題と展望	東信堂	佐藤哲夫	6号
今西靖治 著	2022年	PKOのオールジャパン・アプローチ — 憲法9条の下での効果的な取組	信山社	川口智恵	24号
岩谷暢子 著	2019年	国連総会の葛藤と創造 — 国連の組織、財政、交渉	信山社	久山純弘	22号
上杉勇司、藤重博美 編著	2018年	国際平和協力入門 — 国際社会への貢献と日本の課題	ミネルヴァ書房	福島安紀子	20号
上杉勇司・藤重博美・吉崎智啓 編 著	2012年	平和構築における治安部門改革	国際書院	山下光	15号
上野友也 著	2012年	戦争と人道支援 戦争の被災をめぐる人道の政治	東北大学出版会	白戸 純	15号
上村雄彦	2009年	グローバル・タックスの可能性 — 持続可能な福祉社会のガバナンスをめざして —	ミネルヴァ書房	功力達朗	13号
上野友也	2021年	膨張する安全保障：冷戦終結後の国連安全保障理事会と人道的統治	明石書店	千知岩正継	25号
白井久和・馬橋憲男（編）	2004年	新しい国連 — 冷戦から21世紀へ	有信堂	軽部恵子	6号
大内和臣・西海真樹 編	2002年	国連の紛争予防・解決機能	中央大学出版部	川崎恭治	4号
大沼保昭	2010年	文際的視点からみた国際法：多極化・多文明化しつつある21精正規世界における通説的認識枠組みを問う	Martinus Nijhoff	竹内雅俊	13号
大平剛	2008年	国連開発援助の変容と国際政治 — UNDPの40年 —	有信堂	村田俊一	10号
緒方貞子	2005年	激動の10年 — 1990年代の難民危機に対峙して	W.W.Norton & Co.Inc,	中満泉	7号
小田滋	2009年	国際法と共に歩んだ六〇年 — 学者として裁判官として	東信堂	植木俊哉	11号
帯谷俊輔 著	2019年	国際連盟 — 国際機構の普遍性と地域性	東京大学出版会	渡部茂己	22号
小山田英治	2019年	開発と汚職：開発途上国の汚職・腐敗との戦いにおける新たな挑戦	明石書店	真嶋麻子	21号
介入と国際主権に関する国際調査委員会	2001年	市民を保護する責任	International Research Centre	加藤普章	4号
イング・カウル他編	1999年	地球公共財 — 21世紀における国際協力	Oxford University Press, New York,	功力達朗	2号
加藤宏・ジョン・ページ・下村恭民 編著	2016年	日本の開発援助 — 対外援助とポスト2015アジェンダ	Palgrave Macmillan	大平剛	18号
川端清隆	2002年	アフガニスタン — 国連和平活動と地域紛争	みずす書房	佐渡紀子	5号
川村真理 著	2019年	難民問題と国際法制度の動態	信山社	秋山肇	23号
北岡伸一	2007年	国連の政治力学 日本はどこにいるのか	中公新書	安藤仁介	9号
キハラハント愛	2017年	国連警察の責任を問う — 国連警察要員の個人の刑事的アカウンタビリティ	Leiden, Broston: Brill/Nijhoff	藤井京子	20号
桐山孝信	2001年	民主主義の国際法 — 形成と課題	大阪市立大学法学叢書	西海真樹	3号
ケント・J・キル	2006年	管理者的タイプからカリスマ性を持つタイプまで — 国連事務総長	Palgrave Macmillan	大泉敬子	9号

功刀達朗・内田孟男編著	2006年	国連と地球市民社会の新しい地平	東信堂	園田明子	8号
功刀達朗・野村彰男 編著	2008年	社会的責任の時代 ― 企業・市民社会・国連のシナジー	東信堂	笠原重久	10号
ジーン・E・クラズノー編	2004年	国連：グローバル社会の課題	Lynne Rienner Publishers	佐渡紀子	6号
J・M.クワコウ/V.ハイスカネン編著	2001年	国際組織の正当性（レジティマシー）	United Nations University Press Washington,DC:The Brookings Institution	吉田脩	4号
ジャン＝マリー・ゲーノ	2015年	避けられたかもしれない戦争 ― 21世紀の紛争と平和		黒田順子	20号
レオン・ゴードンカー	2005年	国連事務総長と事務局		阿部達也	7号
国連と市民社会の権威系に関する有識者パネル報告		われら人民 ― 市民社会、国連、およびグローバル・ガバナンス		北村治	6号
佐藤禎一		文化と国際法 ― 世界遺産条約・無形遺産条約と文化多様性条約		位田隆一	11号
佐藤哲夫	2005年	国際組織法	有斐閣	香西茂	9号
佐藤哲夫 著	2015年	国連安全保障理事会と憲章第7章 ― 集団安全保障制度の創造的展開とその課題	有斐閣	山本慎一	18号
清水奈名子	2011年	冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護 ― 多主体間主義による規範的秩序の模索―	日本経済評論社	山田哲也	13号
リチャード・ジョリー、ルイス・エメリー、トーマス・G.ワイス	2009年	世界を変えた国連のアイデア	Indiana University Press	内田孟男	12号
イアン・ジョンストン	2011年	審議の力 ― 国際法、国際政治、国際機構	Oxford University Press	松隈潤	14号
杉浦功一	2010年	民主化支援 ― 21世紀の国際関係とデモクラシーの交差―	法律文化社	大柴亮	12号
ジョセフE. スティグリッツ & メアリー・カルドー 編著	2013年	安全への探究 ― 保護主義無しの保護とグローバル・ガバナンス	Columbia University Press	内田孟男	15号
ジョセフ・セバレンジ ラウラ・アン・ムラネ 著（米川正	2015年	ルワンダ・ジェノサイド生存者の証言 ― 憎しみから赦しと和解へ―	立教大学出版会	二村まどか	17号
大道寺隆也 著	2020年	国際機構間関係論 ― 欧州人権保障の制度力学	信山社	滝澤美佐子	24号
高井晋	2005年	国連安全保障法序説 ― 武力の行使と国連 ―	内外出版株式会社	星野俊也	8号
ラメシュ・タクール	2006年	国際連合、平和そして安全保障	Cambridge University Press	石塚勝美	8号
詫摩佳代 著	2020年	人類と病 ― 国際政治から見る感染症と健康格差	中央公論新社	鈴木淳一	22号
竹内俊博・神余隆博 著	2021年	国連安保理改革を考える：正統性、実効性、代表性からの新たな視座	東信堂	植木安弘	23号
田所昌幸・城山英明 編	2004年	国際機関と日本 ― 活動分析と評価	日本経済評論社	阿曾村智子	6号
柘山堯司	2010年	集団安全保障の本質	東信堂	小森雅子	13号
デニス・ディクゾイル	2000年	国連システムにおける成果を重視した改革 ― UNOPSの研究	St.Martin's Press	岩佐洋子	3号
ラインハルト・ドリフテ（吉田康彦訳）	2000年	国連安保理と日本：常任理事国入り問題の軌跡	岩波書店	ヴァージュール・ホーキンス	2号
ジョセフ・S・ナイ/ジョン・D・ドナヒュー	2001年	グローバル化する世界におけるガバナンス	Brookings Institution Press	太田宏	3号
中村道	2009年	国際機構法の研究	東信堂	滝澤美佐子	12号
納屋政嗣	2003年	国際紛争と予防外交	有斐閣	多田透	5号
西海洋志 著	2021年	保護する責任と国際政治思想	国際書院	望月康恵	24号
西谷真規子 編著	2017年	国際規範はどう実現されるか ― 複合化するグローバル・ガバナンスの動態 ―	ミネルヴァ書房	大芝亮	20号
西谷真規子・山田高敬	2021年	新時代のグローバル・ガバナンス論 ― 制度・過程・行為主体	ミネルバ書房	坂根徹	25号
丹羽敏之	2019年	生まれ変わっても国連：国連36年の真実	人間と歴史社	村田俊一	21号
人間の安全保障委員会	2003年	安全保障の今日的課題	朝日新聞社	福島安紀子	5号
野林健・納家正嗣 編著	2015年	聞き書 緒方貞子回想録	岩波書店	星野俊也	18号
ロジャー・ノルマン、サラ・ザイディ	2007年	国連における人権 ― 普遍的正義の政治史	Indiana University Press	富田麻理	10号
墓田桂 著	2015年	国内避難民の国際的保護 ― 越境する人道行動の可能性と限界	勁草書房	滝澤三郎	18号
墓田桂、杉木明子、池田丈佑、小澤藍 編著	2014年	難民・強制移動研究のフロンティア	現代人文者	星野俊也	16号

長谷川祐弘	2013年	プリモーディアル・リーダーシップ ー 東チモールにおける平和構築と現地主体性	United Nations University Press	上杉勇司	15号
旗手啓介	2018年	告白 ー あるPKO隊員の死・23年目の真実	講談社	井上実佳	20号
ローランド・パリズ、ティモシー・ D・シスク編	2009年	国家建設のジレンマ ー 紛争後の平和活動の矛盾との 対峙	London and New York,Routledge,	上杉勇司	12号
東壽太郎・松田幹夫 編著	2014年	国際社会における方と裁判	国際書院	石塚智佐	17号
東大作 著	2015年	平和構築における正統性構築の挑戦	Routledge	篠田英朗	17号
東大作 編著	2017年	人間の安全保障と平和構築	日本評論社	栗栖薫子	19号
樋口真魚 著	2021年	国際連盟と日本外交 ー 集団安全保障の「再発見」	東京大学出版社	山田哲也	24号
ジェレミー・マタム・ファラール	2007年	国連制裁と法の支配	Cambridge University Press	吉村祥子	10号
リチャード・フォーク／川崎孝子監 訳	2020年	人道的介入と合法的闘い ー 21世紀の平和と正義を求 めて	東信堂	西海洋志	25号
福島安紀子	2010年	人間の安全保障 ー グローバル化する多様な脅威と政 策フレームワーク ー	千倉書房	栗栖薫子	13号
藤重博美、上杉勇司、古澤嘉朗 編	2019年	ハイブリットな国家建設：自由主義と現地重視の狭間 で	ナカニシヤ出版	長谷川祐弘	21号
二村まどか・Nadia Bernaz 編著	2014年	移行期の国々における死刑制度の政治学	Routledge	望月康恵	16号
ブライアン・フレダーキング	2007年	米国と安全保障理事会 ー 冷戦後の集団安全保障	Routledge	小森雅子	10号
ジェフリー・ヘインズ	2007年	宗教と開発 ー 対立か、協力が？ ー	Palgrave Macmillan	阿曾村智子	11号
ナイジェル・D・ホワイト	2002年	国際連合システム ー 国際正義に向けて	Lynne Rienner Publishers	水島朋則	5号
真嶋麻子	2023年	UNDPガバナンスの変容 ー ラテンアメリカにおける現 地化政策の実践から	国際書院	大平剛	25号
松隈潤	2018年	地球共同体の国際法	国際書院	植木俊哉	21号
S.N.マックファーレン、Y.F.コーン	2006年	人間の安全保障と国連 ー 批判的な歴史	Indiana Univ. Press	佐藤安信 山本 哲史	8号
デービッド・マローン	2006年	イラクに対する国際的闘争：1980～2005年の国連安 全保障理事会の政治 保護する責任：	Oxford University Press Inc., New York,	Liu Tiawa	9号
政所大輔 著	2020年	変容する主権と人道の国際規範 コンゴ動乱と国際連合の危機	頸草書房	清水奈名子	23号
三須拓也 著	2017年	ー米国と国連の協働介入史、1960～1963年	ミネルヴァ書房	石塚勝美	19号
村瀬信也 編	2009年	国連安保理の機能変化	東信堂	篠田英朗	11号
最上敏樹	2007年	国際立憲主義の時代	岩波書店	武者小路公秀	11号
最上敏樹	2006年	国際機構論（第二版）	東京大学出版会	香西茂	9号
最上敏樹	2001年	人道的介入 ー 正義の武力行使はあるかー	岩波新書	水本和実	4号
望月康恵	2012年	移行期正義 ー 国際社会における正義の追求	法律文化社	清水奈名子	14号
森田章夫	2000年	国際コントロールの理論	東京大学出版会	吾郷眞一	3号
リース・モリエ・ハワード	2008年	国連PKOと内戦	Cambridge University Press	井上実佳	10号
安田佳代 著	2014年	国際政治のなかの国際保健事業 ー 国際連盟保健機関 から世界保健機関、ユニセフへ	ミネルヴァ書房	久保田純	16号
山田哲也	2010年	国連が創る秩序 ー 領域管理と国際組織法 ー	東京大学出版会	渡部茂己	12号
山本慎一・川口智恵・田中（坂部） 有佳子 編著	2012年	国際平和活動における包括的アプローチ ー 日本型協力システムの形成過程ー	内外出版株式会社	久保田徳仁	15号
横田洋三	2001年	国際機構の法構造	国際書院	香西茂	3号
横田洋三・宮野洋一編著	2008年	グローバルガバナンスと国連の将来	中央大学出版部	渡邊昭夫	10号
横田洋三・山村恒雄編	2003年	現代国際法と国連・人権・裁判 ー 波多野里望先生子 機記念論文集	国際書院	植木俊哉	5号
総合研究開発機構（NIRA）・横田洋 三・久保文明・大柴亮 編	2006年	グローバル・ガバナンス ー 「新たな脅威」と国連・ア メリカ	日本経済評論社	渡部茂己	8号
吉川元 編	1999年	予防外交	三嶺書房	堀江浩一郎	2号
米川正子 著	2017年	あやつられる難民 ー 政府、国連、NGO のはざままで	筑摩書房	墓田桂	19号

エドワード・C・ラック	1999年	混在する言説と政策 — アメリカ政治と国際機構1919—1999	Brookings Institution Press	内田孟男	2号
エドワード・C・ラック、マイケル・W・ドイル編	2004年	国際法と国際機構 — コンプライアンス・ギャップの改善に向けて	Rowman & Littlefield Publishers	井上実佳	7号
オリヴィエ・リブリンク編	2008年	国連憲章を超えて — 平和、安全、司法の役割	Hague Academic Press	吉高神明	11号
蓮生郁代	2012年	国連行政とアカウンタビリティの概念 — 国連再生への道標	東信堂	久山純弘	14号
エミリー・パドン・ローズ 著	2016年	平和維持においていずれかの側にたつということ — 公正性と国際連合の将来	Oxford University Press	大泉敬子	19号
トーマスG.ワイス、ラメシュ・タクル	2010年	グローバル・ガバナンスと国連 — 未完成の旅 —	Indiana University Press	太田宏	13号
渡辺昭夫・土山實男 編	2001年	グローバル・ガバナンス — 政府なき秩序の模索	東京大学出版会	栗栖薫子	4号
		「人間の安全保障」 — それは本当に人間を救っているのか		饗場和彦	7号